

学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年	第1学年	第2学年	第3学年
育てたい力	資料を効果的に活用する力						
重点指導目標	地図や 各種の具体的資料 を効果的に活用する。	地図や地球儀、 統計 などの各種の基礎的資料を効果的に活用する。	地図や地球儀、 年表 などの各種の基礎的資料を効果的に活用する。	地図や地球儀、地形図、年表、絵画、統計資料、文献資料などの各種の基礎的資料を効果的に活用する。	統計資料などの各種の基礎的資料を効果的に活用する。		
指導内容	資料から必要な情報を読み取り、簡単な言葉で表現する 資料から必要な情報を的確に読み取り、簡単な言葉で表現する 資料に表されている事柄の全体的な傾向をとらえる 複数の資料を関連付けて読み取る 資料の特徴に応じて読み取る 必要な資料を収集する 必要な資料を収集したり選択したりする 資料を整理したり再構成したりする				様々な資料を適切に選択、活用する 様々な資料を適切に収集、選択する 資料から必要な情報を的確に読み取り、資料の全体的な傾向を捉え、活用する 複数の資料から特徴を関連付けて読み取り、適切に活用する 調べたい事柄に合った資料を収集し、その中から必要なものを選択し、文章としてまとめたり、再構成したりする 地理的事象および歴史的事象の指導にあたり、地図から事象を読み取ったり、活用する		
単元	「もっと知りたい みんなのまち」 「見直そう わたしたちの買い物」 「調べよう 物をつくる仕事」 「さぐってみよう 昔の暮らし」 「安全な暮らしとまちづくり」 「健康な暮らしとまちづくり」 「昔から今へと続くまちづくり」 「わたしたちの都のまちづくり」	「わたしたちの暮らしと国土」 「食料生産を支える人々」 「工業生産を支える人々」 検証Ⅰ 「暮らしを支える情報」 「環境を守る人々」	「大昔の暮らし」 「武士の世の中」 「近代国家への歩み」 「戦争から平和へ」 「暮らしの中の政治」 「日本と世界のつながり」	「みつめてみよう、わたしたちの地球」 「調べてみよう、まわりの世界」 「くらべてみよう、世界と日本」 「歴史の流れと地域の歴史」 検証Ⅱ 「人類の誕生と古代社会」 「中世社会の成立と動乱」 「近代社会の成立と発展」 「近代国家の成立とアジア」	「二度の世界大戦と日本」 「現代の日本と世界」 「現代社会を生きる」 「私たちの生活と政治」 「私たちの生活と経済」 「国際社会を生きる」		
主な学習内容	資料やワークシートを活用し、私たちの身近な生活について多面的・多角的に考察させる。	私たちが住む社会のしくみについて、地図や年表などの資料や様々な統計、ワークシートなどを活用し、多面的・多角的に考察させ、理解させる。	古代から現代までの我が国の歩みを年表や様々な資料から読み取り、多面的・多角的に考察させ、理解させる。	【地理的分野】 資料集や教科用図書「地図」を十分に活用し、地理的な見方や考え方および地図の読図や作図、景観写真の読み取りなど、地理的技能的習得を行う。 【歴史的分野】 我が国の歴史上の人物や出来事について、資料を活用して調べたり考えさせたりする活動を通して、歴史的事象に対する関心を高め、我が国の歴史の大きな流れを理解させる。	私たちが生活する現代社会の経済や政治のしくみ、役割について、様々な資料や統計を活用し、多面的・多角的に考察させ、現代社会についての見方や考え方の基礎を養う。		

理科・社会科部会 <社会科>

育てたい力

資料を効果的に活用する力

1 連携のねらい

小学校4年間（小3～小6まで）、中学校3年間の7年間を通し、社会科で共通し育てていきたい力として、本テーマを設定した。これは児童・生徒の学習活動において基礎となる力であり、新学習指導要領においては、地理的分野・歴史的分野・公民的分野の各分野において、育てるべき力として位置付けられ、重要視されている。指導内容系統一覧表にもあるように、小学校3年生からの7年間で、計画的・系統的に指導することで、様々な資料を適切に選択・活用し、地理的・歴史的・公民的な様々な事象を、多面的・多角的に考察し、判断する力や態度を育てる上で有効であると考えた。

2 具体的な手だて

- （1）資料を選択し活用する学習を重視するとともに、作業的、体験的な学習を重視するようにする。
- （2）地図や年表を読み取ったり、それらを作成したりする活動を重視する。また、新聞、読み物、統計、その他の資料に普段の授業から触れさせるなど、様々な資料を適切に活用していく。
- （3）観察や調査などの過程と結果を整理し、レポートにまとめ、発表するなどの活動を取り入れるようにする。
- （4）資料の収集や処理にはコンピュータやインターネットなどを活用し、生徒が興味・関心をもって学習に取り組み、生徒が主体的に情報手段を活用できるように配慮する。
- （5）授業で作成した作品は廊下や教室に掲示し発表の場をつくる。

3 言語活動の充実に向けて

児童・生徒が資料を活用するだけではなく、資料から読み取ったことや判断したこと、感じたことを引き出すために、言語活動を積極的に取り入れた。小学校中学年では、資料から読み取った情報を、簡単な言葉で表現させる。小学校高学年では、ワークシートなどを活用し、読み取った情報や感じたことをまとめさせたり、簡単な言葉で表現させたりする。また、グループなどで話し合わせ、互いの考えや意見を共有させる活動を通し、さらに思いや考えを深化させるきっかけとする。中学校では、調べたい事象に適した資料を収集し、その中から必要なものを選択し、分かったことや感じたことを自分の言葉で文章にまとめさせたり、表現させたりする。このような活動を通し、児童・生徒の表現力や言語力を育てていく。

検証授業Ⅰ

単元名「世界とつながる自動車」(小学校第5学年)

1 小中連携の視点

社会科部会では、小学校第3学年から中学校第3学年までの7年間で育てたい力を「資料を効果的に活用する力」とした。そこで、資料読み取りの手だてを以下の視点から考えた。

2 具体的な手だて・指導の工夫

(1) 教材の工夫

導入で日本最大の貿易港である成田国際空港を取り上げた。クイズ形式を用いて、前単元に学習した水産業のデータを提示したり、全体の輸入額において水産物の輸入はわずかであることを確かめたりした。その驚きから学習への興味・関心を高めることとした。また、資料には様々な情報が入っており、整理しないと見づらいものも多い。個々の気付きを共有することで資料の読み取りを深め、具体物を提示することで逆輸入の理解を深めた。

導入ではクイズで輸入額の不思議に注目させた

(2) 学習活動の工夫

資料を読み取り、考え、判断するためにグラフの読み取りを中心に学習を進めた。さらに輸出額と輸入額との差から外国との貿易の問題点についての関心を高め、「もしも自分が国の代表者になったなら」というテーマで学習感想を書き、日本の今後の貿易のあり方について考えさせた。



資料を読み取り、気が付いたことを発表する児童

大型TVモニターに具体物を拡大して提示した



3 授業の考察

今回の授業では、社会科部会の指導内容系統一覧表における「資料に表されている事柄の全体的な傾向をとらえる」「複数の資料を関連付けて読み取る」ことが比較的達成されたと感じる。しかし、今回の授業では、資料の提示の仕方を2種類まとめて提示する方法をとったが、それぞれ1枚ずつ丁寧に読み取りを進めていく中で日本の貿易の特徴を捉えるような授業展開の方がより効果的であったと思われる。さらに、学習したことをいかに日常生活とリンクさせていくかを考え、新聞記事やインターネット等のニュースを活用して学習を深めていきたい。

検証授業Ⅱ

単元名「人類の誕生と古代文明」(中学校第1学年)

1 小中連携の視点

小学校4年間、中学校3年間の7年間を通し、社会科で共通する視点として「資料を効果的に活用する」ことが挙げられる。資料を収集すること、読み取ることや関連付けさせることなどは、どの学年においても共通して行うことである。小中連携の研究を通して、小学校の立場からの資料の効果的な活用方法と中学校の立場からの資料の効果的な活用方法を連携させることで、より効果的な活用方法が見出せるのではないだろうか考える。

以上のことを共通認識として、「資料を効果的に活用する力」の育成を大きな視点として、取り組んでいくことにした。

2 具体的な手だて

(1) 資料集の活用

資料集と教科書にあるイラストを活用し、プリント「人類の進化表」の完成を目指した。

図やイラスト、写真から、人類の進化の過程について、生徒自ら考え、気付かせるように指導する。

(2) 視聴覚教材の使用

視覚的資料としてパワーポイントを活用した。スライドによって図や写真、表などを示すことで、生徒は視覚的に捉えることができ、学習内容の理解に役立つと考える。また、資料集や教科書にない資料なども活用することができる。

3 授業の考察

- ・本時の導入において、猿(ラマピテクス)からアウストラロピテクスや原人、旧人、新人、現代人までの進化の過程を図やアニメーションで提示した。特に最後の図では授業者自身を用いることで、猿から現代人までの進化の道のりを把握することができたと思う。また、資料集や教科書にない資料をスライドで表示することにより、内容を共有することができたと思う。
- ・教科書や資料集を活用することで、表を完成することができた。また、その表を活用し、授業内容の定着を図ることができたと思う。
- ・多くの画像資料を提示することができた。しかし提示しただけで、資料の活用について深めることができなかった。たとえば、スライドで示したネアンデルタール人の埋葬の様子

や、ペキン原人の火を使う様子、クロマニヨン人の生活の様子などの画像は、方法によってはより効果的に使用することができたと考える。



歴史プリント 2

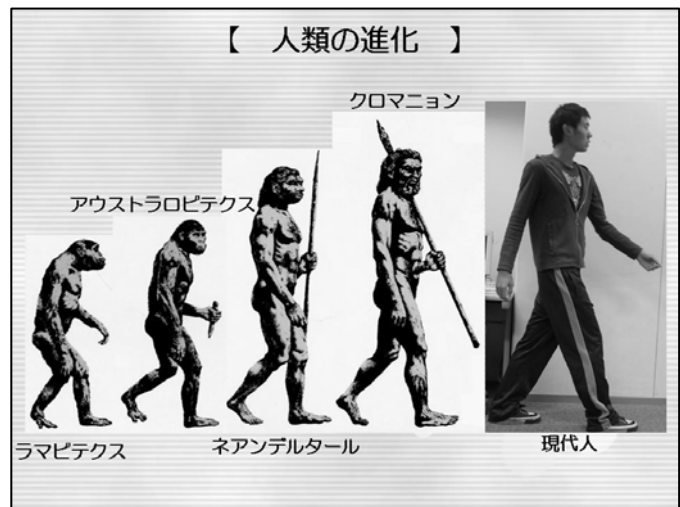
1年 1組 1番 佐藤

第1章 人類の誕生と古代社会 『人類の誕生する』教科書 p.24-25

目標: 人類の進化について整理しよう!

女人類の進化
図1 下の「人類の進化」の表を完成せよ!

人類の進化	猿人	直立人	ネアンデルタール人	クロマニヨン人
出現時期	約500万年前	約20万年前	約5万年前	約4万年前
平均身長	400cm	150cm	160cm	170cm
特徴	直立二足歩行 道具を使用			



※「ネアンデルタールとクロマニヨン人展」パンフレットより引用

成果と課題

- 小中学校で「資料を効果的に活用する力」を育成するために我々はどういった工夫ができるのかを念頭に授業を考え、実践し、それらを共有できたことは一つの成果といえる。資料を提示するタイミングや発問のかけ方など、普段の学校種では感じる事ができない新鮮な感覚であった。
- 社会科は地理的分野や歴史的分野にしても資料が多量にあるにもかかわらず、伝える内容が多いため、子供たちの「耳」に働きかけることが多くなってしまいがちである。それらを、資料を使うことで子供たちの「目」に刺激をより強く与えることができる。この連携で得た成果を基により多くの資料を使っていきたい。
- 資料を「効果的に」使用するのであって、ただ単に使用するのではないということが課題である。資料を使用するだけならば、何でも提示することができる。子供たちの思考力や関心・意欲を喚起させるためにも、「より効果的な資料、提示方法は何か」ということを考えて、授業に取り組む必要がある。